

# 炭素材料学会賞規程

1995年4月13日制定 2024年2月1日改定

## (総則)

第1条 炭素材料学会賞（以下、学会賞）は、炭素材料の科学・技術の進歩発達に資し、その業績が特に顕著な者に贈り、これを表彰する。学会賞は、この規程の定めるところによる。

## (表彰の種類と機関誌への掲載)

第2条 学会賞は次の5種類とし、総会の席上でこれを授与する。

- 1：学 術 賞 賞牌
- 2：技 術 賞 賞牌
- 3：研究奨励賞 賞牌
- 4：論 文 賞 賞牌
- 5：功 勞 賞 賞牌

## (学術賞)

第3条 学術賞は、本会会員歴5年以上の正会員であって、炭素材料の科学・技術に関する重要な研究をなし、その業績が特に優秀で、少なくともその業績の一部が本会機関誌「炭素」あるいは「Carbon Reports」に掲載され、原則として表彰を受ける翌年の4月1日現在で満60歳以下の者に授与する。学術賞の受賞者は本会機関誌「Carbon Reports」に受賞内容に関する英文レビュー（総説、解説、総合論文）を寄稿することにより、機関誌読者に周知することとする。

## (技術賞)

第4条 技術賞は、本会会員歴5年以上の正会員およびそのグループ、または会員歴5年以上の賛助会員の組織に所属するグループ（この場合、非賛助会員の組織に所属するグループとの連名でも差し支えない）であって、炭素材料にかかわる新しい製造技術、用途開発などの炭素材料の工学に関し、その業績が特に優秀な者に授与する。受賞者は受賞内容に関するレビューなどを機関誌に寄稿することにより、機関誌読者に周知することとする。

## (研究奨励賞)

第5条 研究奨励賞は、正会員または学生会員として本会会員歴3年以上の者で、炭素材料の科学・技術に関する重要な研究をなし、少なくともその業績の一部が本会機関誌「Carbon Reports」に掲載され、原則として表彰を受ける翌年の4月1日現在で満39歳以下の者に授与する。研究奨励賞の受賞者は本会機関誌「Carbon Reports」に受賞内容に関する英文レビュー（総説、解説、総合論文）を寄稿することにより、機関誌読者に周知することとする。

## (論文賞)

第6条 論文賞は炭素材料の科学・技術に関して優秀な研究成果を本会機関誌「Carbon Reports」に投稿し、掲載された個人あるいはグループ（著者が複数の場合）に授与する。対象としては、責任著者が本会の個人会員（正会員、学生会員、名誉会員）、または賛助会員の組織に所属する者であって、一定期間に「Carbon Reports」に掲載された論文・コミュニケーション・総合論文・技術報告・資料とする。

## (功労賞)

第7条 功労賞は、炭素材料の科学・技術に関する重要な研究をなし、運営委員会が推薦する者、炭素材料学会会長、もしくは日本学術振興会第117委員会委員長を務め、原則として表彰を受ける翌年の4月1日現在で満70歳以上の者に授与する。

## (会員歴の算定基準)

第8条 第3条から第5条に規定されている会員歴の算定期日は、いずれも受賞の年の12月31日現在とする。

## (表彰の件数)

- 第9条
- 1：学会賞の件数に関しては、特に制限を付けないが、原則として各賞1件以内とし、該当者がいない場合は、該当者なしとする。
  - 2：論文賞の件数に関しては、原則として2件以内とし、該当論文がない場合は、該当論文なしとする。

## (学術賞・技術賞・研究奨励賞の選考委員会)

- 第10条
- 1：受賞選考のため選考委員会を置く。
  - 2：選考委員会の任期は2年とし、会長が委嘱する。
  - 3：選考委員会について、会長が選考委員長を委嘱し、選考委員長が委嘱した選考委員4名の計5名により構成する。ただし、このうち2名は運営委員の中から選任する。欠員が生じた場合は、直ちに補充するものとし、補充された者の任期は前任者の任期を引き継ぐものとする。
  - 4：選考委員会は、必要に応じて関連する専門分野から各賞の審査委員を委嘱することができる。
  - 5：選考委員ならびに審査委員の氏名は外部に公表してはならない。
  - 6：受賞候補者、受賞候補者の指導者、共同研究者は選考委員になることはできない。また、委員委嘱後に上述の事情が生じた当該委員は、委員を辞退するものとする。

## (論文賞の選考委員会)

- 第11条
- 1：受賞選考のため選考委員会を置く。
  - 2：選考委員長は編集委員の互選によって決定する。
  - 3：論文賞選考委員会は選考委員長、編集委員、選考委員長が委嘱した数名の編集委員会外識者で構成する。
  - 4：受賞候補論文の著者は選考委員になることはできない。
  - 5：選考委員長ならびに編集委員会外識者の氏名は外部に公表してはならない。

## (学術賞・技術賞・研究奨励賞候補者の推薦)

第12条 受賞候補者の推薦は自薦他薦のいずれかによる。いずれの場合も1名以上の正会員あるいは賛助会員の代表者からの推薦のあることが望ましい。したがって自薦の場合は他の推薦者なしでもよく、他薦の場合は1名の推薦でもよい。

## (学術賞・技術賞・研究奨励賞推薦の方法)

第13条 受賞候補者の推薦方法および日程は、次の通りとする。

- 1: 学会ホームページにおいて、会員に推薦要領を知らせる。
- 2: 推薦者は、7月末日までに所定の推薦書を会長宛、学会事務局に提出する。

(論文賞の候補の推薦)

第14条 編集委員会にて受賞候補論文を推薦する。

(選考方法)

第15条 選考の方法は当該委員会において決定する。

(選考結果の答申)

第16条 当該選考委員長は、選考結果を、選考理由書を添えて会長に答申する。

(決定)

第17条 会長は、選考委員会からの答申に基づき運営委員会に報告し、評議会にて受賞理由を説明の上、承認を得て受賞者を決定する。

(規程の変更)

第18条 必要に応じ、運営委員会の決定により本規程を改定することができる。

付則 この規程は、2022年2月1日より実施する。ただし、2024年1月1日までは、第3条について炭素に関連する学術誌における研究発表、第5条について本会機関誌「炭素」、炭素に関連する学術誌、炭素材料学会年会における研究発表のいずれかも「Carbon Reports」への掲載要件を満たしたものと認める。